



ID: 1321

科目名	建築防災計画【26年度生用】			コード			
英語表記	Disaster Prevention & Safety Planning for Architecture						
担当教員名	渡壁 守正			年度	平成26年度		
基準年次	3年次	開講期	後期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式		履修形態	選択		
授業概要							
1995年阪神淡路大震災や2011年東日本大震災の教訓を生かし、地震動の性質や構造物の振動特性に加えて、過去の地震災害における地震動と建物被害の関係、都市防災の現状と課題などについて解説する。さらに、生活基盤の維持に深くかかわる社会インフラ施設に関して、安全で安心な街づくりを実現するための防災・減災技術を示し、安全・安心な都市を実現するための防災計画について習得する。							
到達目標							
建築に関わる様々な災害・防災・減災に関する情報を収集し、理解し、応用できる能力を身につける。							
授業計画							
第1回	はじめに: 講義の概要、災害リスクマネジメント						
第2回	災害事例の概観(1): 自然災害/震災、火山災害、気象災害、土砂災害など						
第3回	災害事例の概観(2): 人為災害/事故、火災など						
第4回	都市の構造と建築: 安全・安心な都市社会の形成						
第5回	災害と情報: 災害と人の被災と行動						
第6回	建築と地盤災害: 地盤災害の事例、地盤特性の調査、地盤と基礎構造						
第7回	建築と地震・震災: 地震の基礎と地震被害の事例						
第8回	建築構造の安全: 耐震設計、耐震診断、補強、免震・制震(振)など						
第9回	建築とライフライン災害: 被害の実際と影響						
第10回	建築と火災: 防火、耐火、消火、避難安全						
第11回	建築と気象災害: 台風・高潮、竜巻、居風、洪水、河川氾濫						
第12回	室内の危険と安全対策: 落下、転倒、騒音、振動など						
第13回	災害への備え、防災訓練						
第14回	災害からの教訓と心得、防災マニュアル						
第15回	まとめ: これからの都市防災・減災						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
講義の終わりに理解を深めるため、簡単な課題を出題。期末試験と併せて総合的に評価する。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				20	10	50	20
授業外学習			テキスト、教材				
特に予定なし			パワーポイントを用いて講義を行う。講義時にプリントを配布予定である。				
参考書			受講生へのメッセージ				
講義内容に応じて都度紹介する。			災害・防災・減災の事例を紹介し、自助・共助・公助の重要性と安全・安心な都市を実現するための防災計画の基礎を分かりやすく説明するので出席することが大切である。				
キーワード							
・地震 ・火災 ・被害軽減 ・避難安全 ・災害リスクマネジメント							